

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 東谷 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学, 英語)の結果

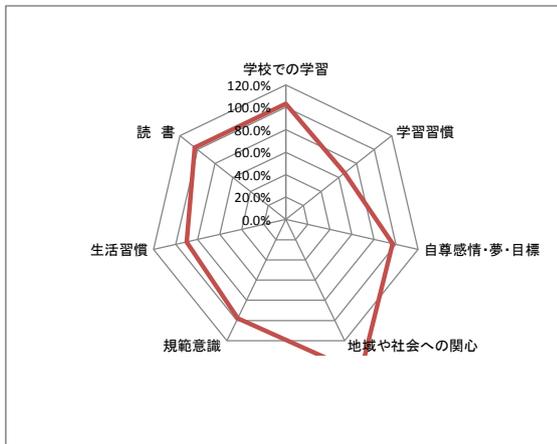
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を下回っている。文章の構成や展開、表現の仕方を分析的に捉え、書き手の目的や意図を考えたりすることが苦手であり、自らの考えをまとめていく点に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	封筒に投稿先の名前と住所を書く課題に関しては、全国平均をかなり上回った正答率であった。地域や社会に対する関心の高さが生かされ、体験に基づいている結果である。	
	努力が必要な問題	質問の意図に関して、正確に読み取ることに迷いが生じている。取り出した内容を整理する学習を進める必要がある。	
数学	全体的な傾向や特徴など	基本的な問題も応用的な考え方を必要とする問題も全国平均や県平均を下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	基本的な計算問題や図を見て長さを答える問題などの正答率は全国平均と大きな開きはなかった。	
	努力が必要な問題	長い文章を読んで整理して考える問題や判断力・表現力を必要とする問題の正答率は全国平均とかなり開きがあったので、これから重点的に取り組む必要がある。	
英語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を下回っている。読むことに関しては簡単な文を読むことはできているが、選択肢が単語や絵ではなく、文が長く難しくなると、それをまた理解し、正答に導くことができず、正答率が下がる。書くことに関しては、一番結果が振るわず、ある程度与えられた条件や空白の欄を想像して書くという問題には意欲的に書こうとしているが、全体的に自分の考えを書くことが苦手と思われる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	リスニング問題に関しては7問中3問、全国平均を上回る結果で、全国平均と差がない。	
	努力が必要な問題	的確な文法を用いて、自分の考えを与えられた条件にそって書くということが非常に苦手なようだ。公立問題では必ず英作あがるので、自分の考えを書けるようにさせたい。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○学校での学習についての質問には全国平均を上回っているが、家庭での学習習慣(計画的な学習、学習時間)についての質問には全国平均よりも下回っており、で学習内容の定着にかなり影響していると思われる。
○生活習慣に関して「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問に対して、肯定的な回答が県や全国の平均よりも低いので生活のリズムが確立できていない生徒の割合が多いようである。
○自尊感情の「自分には良いところがありますか」「将来の夢や希望を持っていますか」という質問に対しての肯定的な回答は全国平均より多少低かったが、「人の役に立つ人間になりたいですか」という質問に対しての肯定的な回答は100%であり、社会貢献への意欲は高いと思われる。
○地域の行事への参加に対する肯定的な回答は全国平均よりもかなり高かった。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

◎学力向上のための特設時間の実施(東谷タイム、全職員)
・毎朝、8:30からの10分間
・小中連携教員は、活動の補助を行う。
・アシストシートなどの活用
・1、2年生希望者を対象とした放課後の勉強会を火曜日の17:00まで実施する(数・英 当番制全職員、各学年毎に数学・英語を中心として、基礎的・基本的な学習内容に取り組む)
・ひまわり学習塾(3年生希望者対象、月・水曜日)の実施
◎アシストシート、活用力を高めるワークの活用(5教科の職員、担任)
・単元末に活用ワーク等を位置付け、活用する。
・長期休業日などに冊子にして活用する。
◎学力向上のための「毎日の課題」(家庭学習向け)の実施(5教科の職員、担任)
・5教科の基礎・基本の定着を図る問題を配布し、東谷ノートによって提出させる。
・自主学習欄を設け、家庭学習での自主学習に取り組む。
◎学力向上に関する授業改善研修の実施
・モデル授業を実施し、取り組み内容の確認を行い、課題を話し合い、分かる授業を目指していく。(全職員)
・数・英・体の授業にはT2の教員が入り、個人指導や補助をする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○宿題のスタンダード化を図る。

- ・東谷ノートを活用して、家庭学習の状況を把握するとともに、家庭学習の習慣を定着させる。
 - ・スマートフォン、ゲーム、テレビなどとの適切な使用の仕方や付き合い方を学校便りや学級通信、保健便りなどで知らせて好ましい生活習慣につなげることができるようにする。
 - ・自主学习ページを活用して、自ら課題を設定・解決する能力を育成する。
 - ・毎日、五教科の問題を出題して基礎学力の定着を図る。
 - ・東谷ノートの活用により、家庭と学校をつなぎ、保護者に家庭学習の重要性について理解を求める。
- 小学校と連携し、家庭学習の時間を小学校1年生から段階的に増やしていく。
- また、春休みの課題を作成し、実施することで、学習の遅れなどを個別に把握し、きめ細かな指導体制の確立と中1ギャップへの対応を行う。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知する。
- 学校だよりなどで家庭と連携を強化して、協力体制を整える。